

アゼオトギリにゅーす



2016年
12月

種子採取の巻

アゼオトギリ秋期調査の結果

春・初夏・夏・秋の4回実施した調査の中より秋の調査についてお知らせします。

【自生地】

夏の調査以降、秋の台風の影響により数は減りましたが、昨年の秋と比べるとより多くが生き残りました。

【昨年からの移植地】

数は減ってきている中、たくさん実をつけ、すでに種ができていたので採取しております【今年からの移植地】

半数以上が夏を超えて生き残り、8割が花と実と種をつけ、種を採取できました。



自生地
11月17日撮影



新移植地11月18日撮影

佐奈川を美しくする会 活動紹介

10月29日に新移植地である公園にてクリーン作戦が行われたそうです。

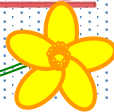
新移植地以外の周辺の除草がされており、他の草や日陰に弱いアゼオトギリにとっては、生育しやすい環境になったのではないかと思います。



クリーン作戦在新移植地
10月29日撮影

みなさまの活動が保全につながる

～咲かせようアゼオトギリ 広げよう笑顔の花～



相可高等学校活動紹介

福井との共同研究に参加している相可高等学校の生産経済科アゼオトギリ班では、夕刊三重に2つの記事が載りました。

①11月9日夕刊三重

三重のアゼオトギリは水中でも発芽出来る事を突き止め、福井県立大学の吉岡教授へ報告し、この発見は価値ある発見であると評価を頂くなど、これからの研究の成果に期待するところです。

②11月30日夕刊三重

11月29日に松阪市立南小学校の6年生と交流し、絶滅危惧種のアゼオトギリについての授業と播種体験を

行うなど、子供たちに自然環境を考える場を提供していただき、地域一体となった活動も行われております。

私たちのアゼオトギリ保全勉強会が地域のみならずと共に関心を持っていただく事など感じしております。

是非みなさまも多様な活動な企画を企画して頂ければと思います。



南小学校での授業

久居農林高等学校活動紹介

相可高等学校と共に福井との共同研究に参加している久居農林高校の環境保全コースでは3つの研究を行ったそうです。

①繁殖技術の確立に向けて培養土の研究を行った結果、水持ちが良く細かい粒の土壌で多くの芽を出すことに成功したそうです。

②自生地付近への付近への保有株の移植研究では、8月に自生地付近の移植を行い



移植状況8月10日撮影

10月まで観察できたそうです。春に新芽が出てくるのが楽しみです。

③校内に佐奈川の環境を再現し、自然気候での生育モニタリングを行った結果、台風にも流されずに生き残ったそうです。これらの研究は今年度も校内大会に向け研究成果を取



8月28日撮影
福井県立大学/吉岡先生と

アゼオトギリの種は採取できましたか？

秋の調査より、みなさまが育てているアゼオトギリも実を結び、種が出来ているところとなっております。

来年からの保全活動にも使える種は出来るだけ採取しておきましょう。

昨年度、一緒に作ったマニュアルでは

種の保管方法は冷蔵(冷凍)でしたが、保存袋に入れたまま常温保管した種子が発芽したとも聞いています。

みなさま独自の生育方法を試みるのも良いのではないのでしょうか。



自生地
11月17日撮影

東海北陸雑草研究会に参加しました

福井県立大学の吉岡教授の招待により、9月16日に名城大学で開催された「第4回東海北陸雑草研究会」に参加させて頂きました。

三重河川国道事務所、建設環境研究所より佐奈川のアゼオトギリの生態とみなさまの活動の様子をご紹介しました。

東海北陸雑草研究会は東海北陸地域を中心に雑草に関心のある方々が交流する場で、今回は人間環境大学の藤井伸二先生より海跡湖についてのお話や、各参加者より研究の成果などが発表されました。

各参加者にはアゼオトギリの調査・保全活動に興味を示して頂き、また、吉岡教授には活動の情報発信の場を提供頂き、感謝致します。



名城大学での開催状況

情報をお寄せ下さい

今年もあとわずかとなりました。暑い夏から気がつけば冬のような寒さになっております。体調には十分お気を付けて下さい。

今年のアゼオトギリ保全活動は福井と三重との活動団体同士の交流、共同研究ではその成果が新聞報道されるなど、多くの活動をしていただいております。これらの活動にも期待しているところです。皆さまも独自の試みなどされていきます。事務局まで情報をお寄せ下さい。

三重河川国道事務所
調査第1課 059(229) 2216
多気町

建設課 0598(38) 11116
環境商工課 0598(38) 11118